

病害虫発生予察情報予報第 12 号

佐賀県農業技術防除センター

I. 予報の概要および各作物の特記事項

作物名	病害虫名 ^{注1)}		3月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫 (抜粋)
			平年比	前年比		
タマネギ	べと病	早生 ¹⁾	やや多	多	266~268	 べと病 越年罹病株
		中晩生	並	並		
	ポトリチス葉枯症		並	並	269	
	腐敗病		多	多	271~272	
	白色疫病		やや多	やや多	270~271	
	ネギアザミウマ		並	やや多	276	
1. べと病 今後、越年罹病株の発生が増加し、早生品種を中心に二次感染が始まると考えられる。このため、各ほ場で越年罹病株の速やかな抜き取りを行うとともに、薬剤防除を定期的かつ切れ目なく確実に実施する（平成 30 年 2 月 14 日付け病害虫対策資料第 14 号参照）。						
イチゴ（本圃）	ハダニ類		やや多	並	214~215	 ハダニ類による被害
	うどんこ病		やや少	やや多	204~206	
	灰色かび病		多	多	206~208	
	アブラムシ類		多	多	219~220	
	コナジラミ類		多	並	216~217	
	アザミウマ類		多	多	216	
1. ハダニ類 発生圃場では、薬剤のかけムラをなくすため不要な下位葉等を除去するとともに、系統（IRAC コード）が異なる薬剤（防除のてびき P478 参照）を組み合わせ 5~7 日間隔で防除を実施する。（平成 30 年 1 月 30 日付け病害虫発生予察注意報第 4 号参照）。 使用できる殺ダニ剤が少ない場合は、気門封鎖系薬剤（粘着くん液剤、エコピタ液剤等）等を積極的に活用する。ただし、これらの薬剤は卵に対して効果が無いので、5~7 日間隔で計 2 回を 1 セットとして散布する。なお、薬害を避けるため、単剤使用とし、開花盛期の散布は避ける。また、加温機を稼働する等して濡れ時間の短縮を図る。						
キュウリ	べと病		やや多	並	184~185	 ミナミキイロアザミウマ
	うどんこ病		やや多	少	182~183	
	灰色かび病		多	多	185~186	
	褐斑病		やや多	多	187~188	
	アザミウマ類		やや少	少	196	
	コナジラミ類		並	並	195~196	

	<p>1. ミナミキイロアザミウマ（黄化えそ病）、タバココナジラミ（退緑黄化病） 両害虫はウイルス病を媒介するため、低密度時に薬剤防除を実施する。また、罹病株を認めた場合は早急に除去するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。 スワルスキーカブリダニを利用する場合は、両害虫の密度を薬剤防除により0頭レベルまで抑えた後に放飼する。</p>
--	---

作物名	病虫害名 ^{注1)}	3月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
トマト	葉かび病	多	多	231~232	 葉かび病
	灰色かび病	多	多	226~227	
	コナジラミ類	並	やや多	157~159 234~236	
	<p>1. コナジラミ類（黄化葉巻病） ウイルス病を媒介するため、低密度時に薬剤防除を実施する。また、罹病株を認めた場合は早急に除去するとともに、媒介虫の薬剤防除を徹底する。</p>				
ナス	すすかび病	やや多	多	235~236	 灰色かび病
	灰色かび病	多	多	234~235	
	菌核病	やや多	多	237	
	アザミウマ類	やや少	やや少	160~165 247~248	
	コナジラミ類	やや少	やや少	157~159 248~249	
施設果菜類	<p>1. 病害全般 こまめな換気とともに、循環扇や加温機を活用し、施設内および葉面の結露を防ぐ。特に、夜間の気温が高いと予想されるときには、加温機の送風機能や循環扇を利用し夜間送風を行う。</p> <p>2. 昆虫媒介ウイルス対策 媒介中の増殖源およびウイルスの伝染源となる圃場内外の雑草を徹底して除去する。</p>				

作物名	病虫害名 ^{注1)}	3月の予想発生量 ^{注2)}		病虫害防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病虫害 (抜粋)
		平年比	前年比		
カンキツ	かいよう病	やや多	多	214~216	 ミカンハダニ
	ミカンハダニ	やや少	やや少	234~238	
<p>1. かいよう病 前年の罹病葉及び罹病枝は伝染源となるため必ず除去する。ただし、強剪定を行うと、枝が遅くまで伸長し、本病にかかりやすい期間が長くなるので適切に剪定を行う。 また、前年に発生した園や風当たりが強い園、罹病性品種（ネーブル、はるみ等）の植栽園、新梢の伸長が遅くまで続く園（幼木園、高接園、隔年交互結実栽培園等）では、発芽前の3月上旬に必ず銅剤を散布する。ただし、発芽直前の銅剤散布は落葉を生じやすいので、樹勢が低下している樹や散布予定前に気温が平年より高く経過し低温に遭遇した場合は散布を控え、4月以降の防除を徹底する。</p> <p>2. 黒点病 冬期の低温の影響で枯れ枝が増加する可能性がある。枯れ枝は本病の主要な伝染源となるため、剪定枝等と併せて除去し処分する。</p>					

	3. 樹勢低下樹へのマシン油乳剤の散布 冬期の低温の影響で落葉が発生しやすい条件にある。そのため、樹勢が低下している樹についてはマシン油乳剤の散布を控え、生育期の殺虫剤散布で対応する。
ナシ	1. 黒星病 落葉は主要な伝染源となるので、除去・処分するとともに、発芽直前及び発芽初期の防除を徹底する。
キウイフルーツ	1. かいよう病 枝や幹から乳白色あるいは赤褐色の樹液が漏出する症状（右写真参照）の早期発見に努め、発見した場合には直ちに罹病部位を切除する。また、すべての園において、6月まで感染防止のための銅水和剤及び抗生物質剤を主体とした定期的な薬剤防除を徹底する（平成30年2月23日付け病害虫対策資料第15号参照）。



かいよう病による樹液の漏出

作物名	病害虫名 ^{注1)}	3月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫（抜粋）
		平年比	前年比		
茶	カンザワハダニ	並	並	407~408	
	1. カンザワハダニ 多発してからでは防除効果があがりにくいため、マシン油を散布した園においても、萌芽前までの防除を徹底する。				
	2. チャトゲコナジラミ 発生茶園：越冬幼虫の密度を低く抑えるため、萌芽前までにマシン油乳剤による防除を行う。 未発生茶園：改植園では、定植苗木に本虫の寄生がないか確認する。本虫が寄生していた場合は枝葉を落として定植し、定植直後にマシン油乳剤を散布する。除去した枝葉は土中に埋設するなど適切に処分する。				
3. 赤焼病 本年は寒害の発生が多くみられており、本病の発生を抑えるため、銅剤の散布を行う。					

作物名	病害虫名 ^{注1)}	3月の予想発生量 ^{注2)}		病害虫防除のてびきの記載頁 ^{注3)}	予報対象の病害虫（抜粋）
		平年比	前年比		
キク	白さび病	やや多	多	390~391	 白さび病
	アザミウマ類	並	並	394~395	
	アブラムシ類	並	並	397~398	
	ハダニ類	並	やや多	396	
	ハモグリバエ類	並	並	399	
	1. 白さび病 発病前からの定期的な薬剤散布と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせで防除する。				

注1) 病害虫名に網掛けをしたものについては、予報の根拠とした内容を記載しています。

注2) 予想発生量については、平年および前年との比較により記載しているため、実際の発生量とは相違を生じる場合があります。例えば、例年の発生量が少ない病害虫について「平年および前年より多い」と予想した場合であっても、実際の発生量は多くない場合があります。

注3) 防除対策については「[佐賀県病害虫防除のてびき](#)」も参照してください。

II. 予報の内容・根拠等について

予報内容（来月の予想発生量）

- 平年（過去 10 年間）及び前年と比較し「少、やや少、並、やや多、多」の 5 段階で示しています。
 なお、少発生が予想される病害虫等については、予報の概要のみの記載となる場合があります。

予報内容の根拠

- 農業技術防除センターが実施する県内各地での調査、防除員の調査、予察灯・トラップでの誘殺状況調査等に基づく発生現況、気象予報からみた病害虫の発生条件等を基に、関係者による発生予察会議で決定します。
 ○ 発生現況および気象条件が来月の病害虫の発生に及ぼす影響については、(－)：少発生、(－～±)：やや少発生、(±)：並発生、(±～＋)：やや多発生、(＋)：多発生として示しています。

防除上注意すべき事項

- 各病害虫を防除する上で特に注意すべき事項等を記載しています。なお、全般的な防除対策については「県防除のてびき」をご参照ください（1 ページの予報の概要にリンク有り）。

写真

- 1～3 ページ目：予報で対象とした病害虫を抜粋して掲載しています。
 5 ページ目以降：定期調査時の各作物の生育状況を掲載しています。

3月の気象条件

- 病害虫の発生に関与する 3 月の気象条件については、福岡管区気象台発表の 3 ヶ月予報（平成 30 年 2 月 23 日）を基に、「気温：平年よりやや高い」、「降水量：平年よりやや多い」と判断しています。

気象予報による要素別確率(%)及び病害虫の発生に関与する気象条件

要素	3 ヶ月予報における 3 月の気象予報（確率予報%）			病害虫の発生に関与する気象条件（平年比）
	低い(少ない)	平年並 (佐賀市の平年値)	高い(多い)	
気温	20	40 (9.9℃)	40	やや高い
降水量	20	40 (128.6 mm)	40	やや多い

Ⅲ. 3月の予報

タマネギ

定期調査：20 圃場
(早生 10 圃場、中晩生 10 圃場)
調査日：2月21～23日



定期調査圃場の様子(上:早生マルチ、下:露地中生)

1. ベと病 (早生マルチ)

- 1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い (前年より多い)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図1 参照)
発生株率：0.005% (平年0.09%、前年0.08%)
平年比：並 (±) 前年比：並 (±)
 - ② 定期調査以外の現地ほ場
これまでに複数のマルチ栽培早生品種圃場で越冬罹病株の発生を認めている。 (±～+)
 - (2) 3月の気象予報
気温は平年よりやや高く、降水量は平年よりやや多いことから、やや多発生の条件 (±～+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 通路を深く掘り高畦にするなどほ場の排水対策を実施する。
 - (2) その他については、特記事項を参照する。

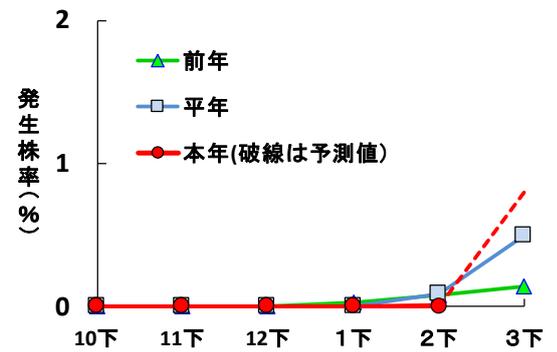


図1 早生タマネギでのべと病の発生推移

2. ベと病 (中晩生)

- 1) 予報の内容
発生量：平年並 (前年並)
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査 (図1 参照)
発生株率：0% (平年0.02%、前年0.01%)
平年比：並 (±) 前年比：並 (±)
 - ② 圃場の菌密度
近年、本病の発生が多い傾向が続いているため、圃場の菌密度は平年並～やや高いと推察される。 (±～+)
 - (2) 3月の気象予報
気温は平年よりやや高く、降水量は平年よりやや多いことから、やや多発生の条件 (±～+)
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 通路を深く掘り高畦にするなどほ場の排水対策を実施する。
 - (2) その他については、特記事項を参照する。

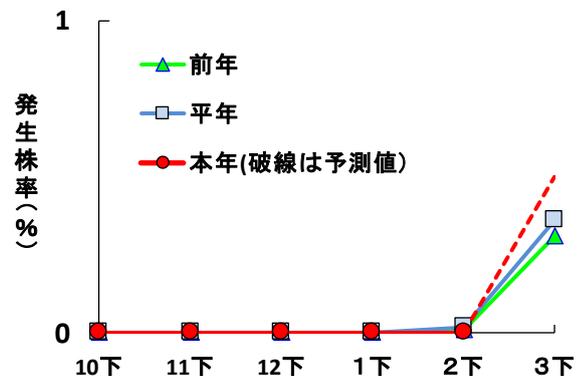


図1 中晩生タマネギでのべと病の発生推移

3. ボトリチス葉枯症

- 1) 予報の内容
発生量：平年並 (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年3.2%、前年0%)

平年比：やや少 (一～±) 前年比：並 (±)

(2) 3月の気象予報

降水量は平年よりやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生を認めた場合には、速やかに防除を実施する。

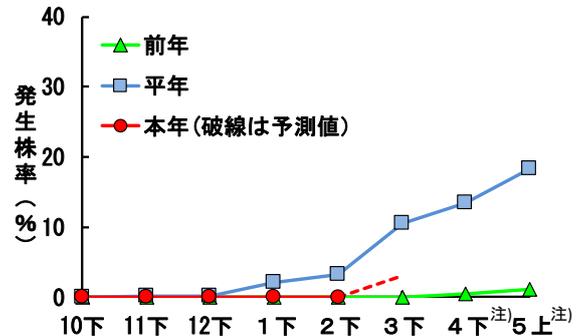


図1 タマネギポトリス葉枯症の発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

4. 腐敗病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い (前年より多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0.3% (平年0.02%、前年0.1%)

平年比：多 (+) 前年比：多 (+)

(2) 3月の気象予報

降水量は平年よりやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生を認めた場合には、速やかに防除を実施する。

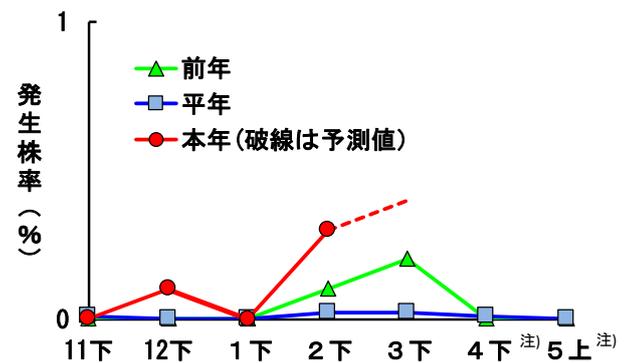


図1 タマネギ腐敗病の発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

5. 白色疫病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年0.01%、前年0%)

平年比：並 (±) 前年比：並 (±)

(2) 12月～2月上旬の気象

佐賀市の平均気温は平年より低く、降水量は少ない～多く、並～やや多発生の条件であった。 (±～+)

(3) 3月の気象予報

降水量は平年よりやや多く、やや多発生の条件 (±～+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 通路を深く掘り高畦にするなどほ場の排水対策を実施する。

(2) 発生を認めた場合には、速やかに防除を実施する。

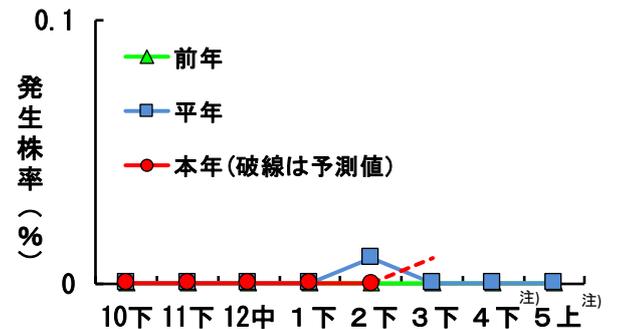


図1 タマネギ白色疫病の発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

6. ネギアザミウマ

1) 予報の内容

発生量：平年並 (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0% (平年2.9%、前年0%)

平年比：やや少 (一~±) 前年比：並 (±)

(2) 3月の気象予報

気温は平年よりやや高く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

(1) 春期の増加を防ぐため、低密度時に防除を実施する。

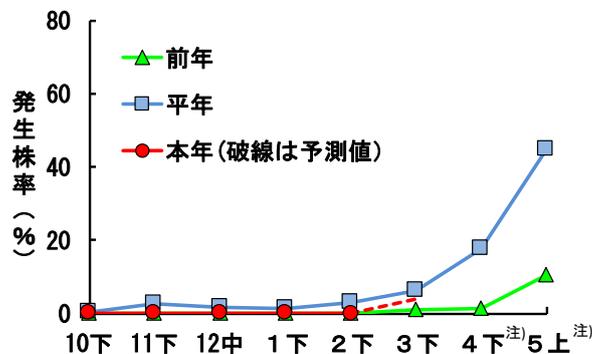


図1 ネギアザミウマのタマネギでの発生推移
注)4月下旬以降は、中・晩生品種を中心に調査

イチゴ (本圃)

農技防調査：11 圃場、防除員調査：6 圃場

調査日： 2月20日~23日



定期調査圃場の様子

1. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い (前年並)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生圃場率：70.6%

発生株率：23.5% (平年13.8%、前年23.7%)

平年比：やや多 (±~+) 前年比：並 (±)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 圃場によりハダニ類の薬剤感受性が異なるため、防除効果を確認しながら、防除薬剤を選定する。
- (2) 薬剤防除の際は、下葉や葉裏まで薬液が付着するように十分量を丁寧に散布する
- (3) 天敵を利用している圃場でハダニ類が急増した場合は利用を中止し、殺ダニ剤による防除を行う。
- (4) その他については特記事項を参照。

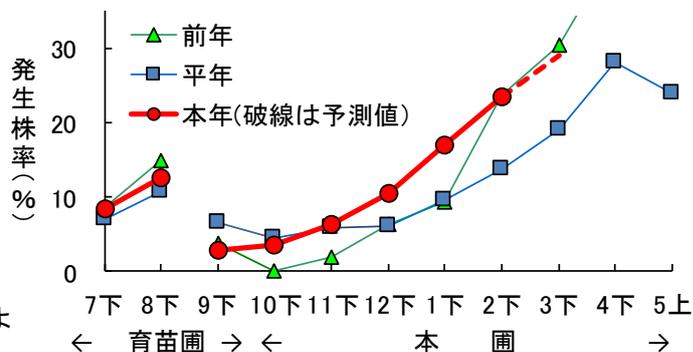


図1 ハダニ類のイチゴでの発生推移

2. うどんこ病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない (前年よりやや多い)

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査 (図1参照)

発生株率：0.2% (平年3.6%、前年0%)

平年比：少 (一) 前年比：並 (±)

(2) 3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件 (±~+)

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 春先の発生を防ぐため、発生圃場では約2週間間隔、発生のない圃場では1ヶ月間隔での薬剤防除と硫黄粒剤のくん煙処理を組み合わせる防除を行う。

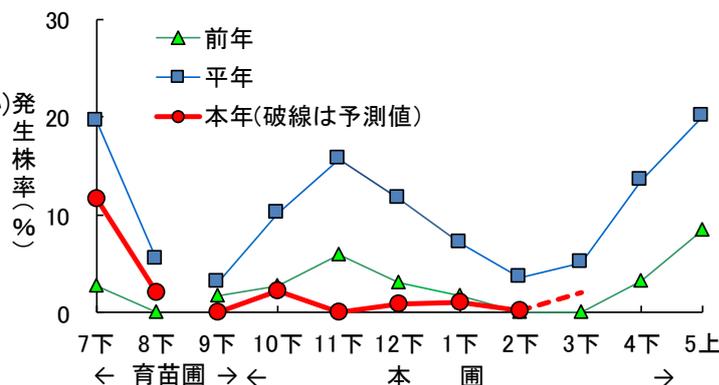


図1 イチゴうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：0%（平年0%、前年0%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）
 - ② 3月の気象予報
気温がやや高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 発生がみられる圃場では、発病部位を速やかに除去するとともに系統（FRACコード）の異なる薬剤（防除のてびきP479-482参照）を組み合わせる薬剤防除を実施する。

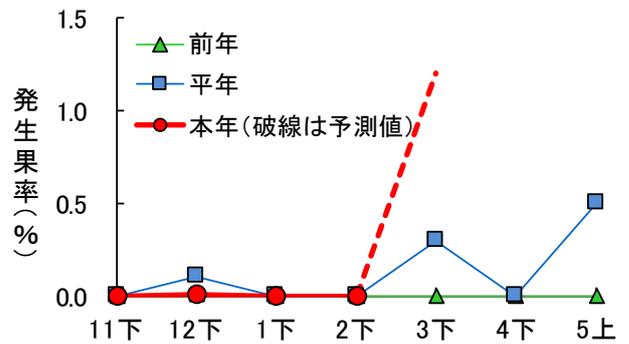


図1 イチゴ灰色かび病の発生推移

4. アブラムシ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：1.6%（平年0.1%、前年0.7%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 発生初期に薬剤防除を実施する。

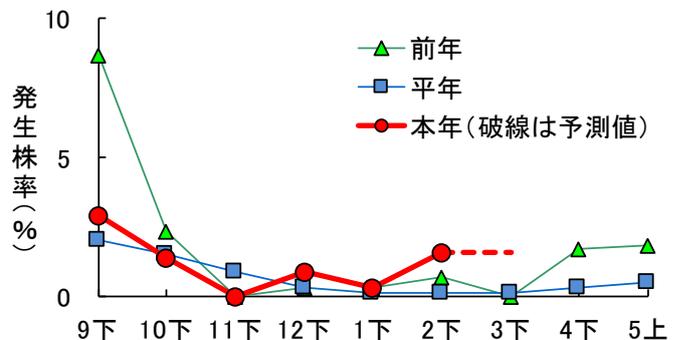


図1 アブラムシ類のイチゴでの発生推移

5. コナジラミ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）
発生株率：11.1%（平年5.1%、前年11.7%）
平年比：多（+） 前年比：並（±）
- 3) 防除上注意すべき事項
 - (1) 春先の多発生を防ぐため、低密度時からの防除を実施する。

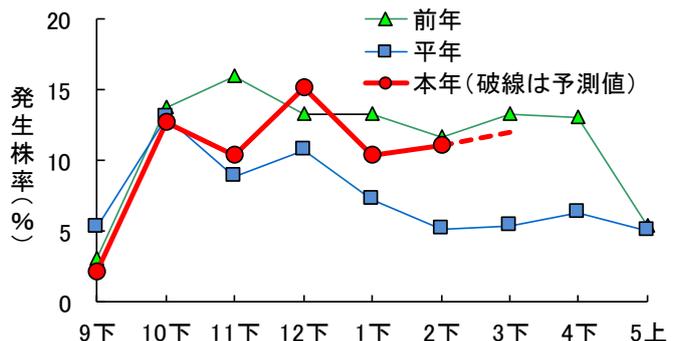


図1 コナジラミ類のイチゴでの発生推移

6. アザミウマ類

- 1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 - (1) 発生の現況
 - ① 定期調査（図1参照）

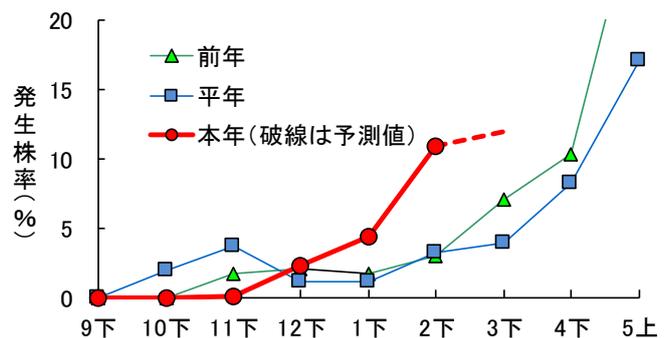


図1 アザミウマ類のイチゴでの発生推移

発生株率：10.9%（平年3.2%、前年3.0%）
 平年比：多<+> 前年比：多<+>

- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 低密度時からの防除を実施する。

キュウリ

農技防調査：8圃場
 調査日：2月21日～23日



1. ベと病

- 1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや多い（前年並）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ①定期調査（図1参照）
 発生株率：0%（平年1.5%、前年0%）
 平年比：やや少<-~±> 前年比：並<±>
- (2) 3月の気象予報
 気温がやや高く、降水量がやや多く、多発生の条件<+>
- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 施設果菜類の特記事項を参照。

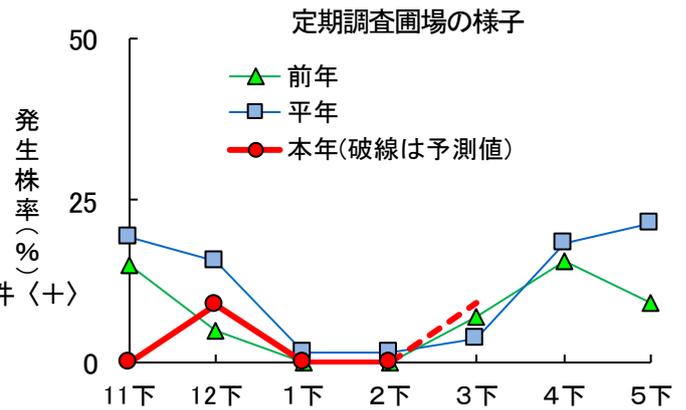


図1 キュウリベと病の発生推移

2. うどんこ病

- 1) 予報の内容
 発生量：平年よりやや多い（前年より少ない）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ①定期調査（図1参照）
 発生株率：2.1%（平年3.1%、前年3.1%）
 平年比：並<±> 前年比：並<±>
- (2) 3月の気象予報
 降水量がやや多く、やや多発生の条件<±~+>
- 3) 防除上注意すべき事項
 (1) 発生初期からの防除を徹底する。

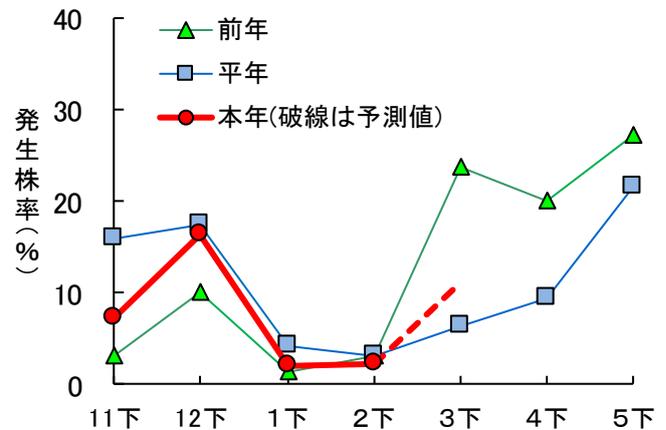


図1 キュウリうどんこ病の発生推移

3. 灰色かび病

- 1) 予報の内容
 発生量：平年より多い（前年より多い）
- 2) 予報の根拠
 (1) 発生の現況
 ①定期調査（図1参照）
 発生株率：0%（平年0%、前年0%）
 平年比：並<±> 前年比：並<±>
- (2) 3月の気象予報
 気温がやや高く、降水量がやや多く、多発生の条件<+>

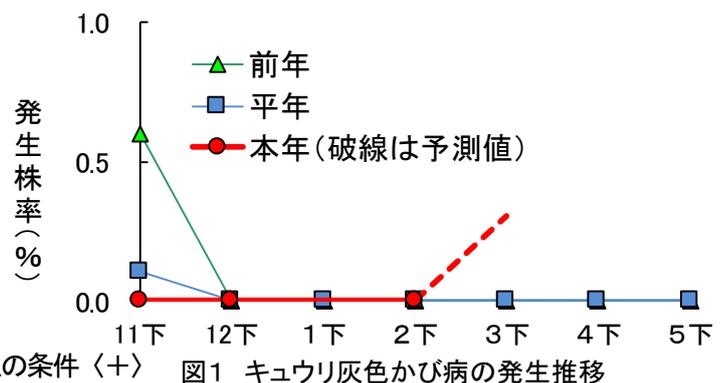


図1 キュウリ灰色かび病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病部位を速やかに除去するとともに薬剤防除を実施する。
- (2) その他については施設果菜類の特記事項を参照。

4. 褐斑病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年7.1%、前年1.3%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温がやや高く、降水量がやや多く、
多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設果菜類の特記事項を参照。

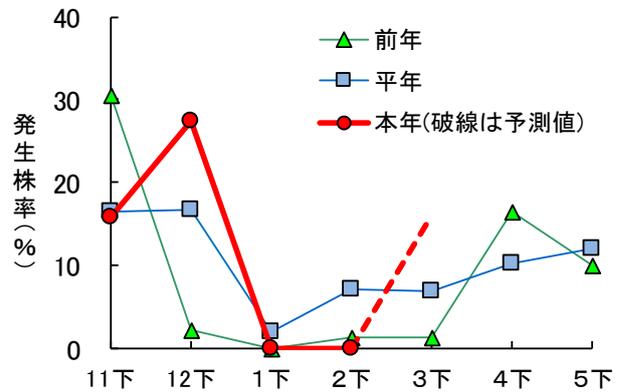


図1 キュウリ褐斑病の発生推移

5. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年より少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年3.9%、前年0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

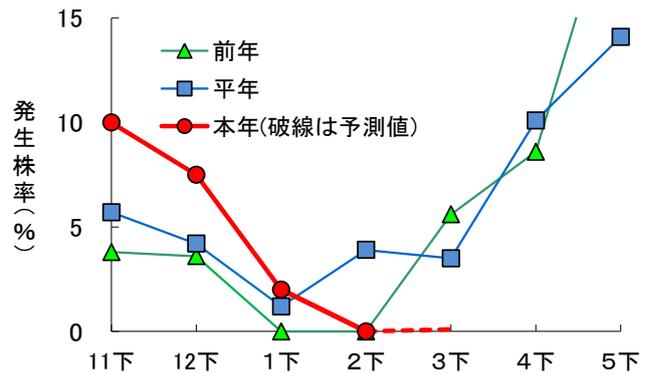


図1 アザミウマ類のキュウリでの発生推移

6. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：0%（平年0.8%、前年0%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

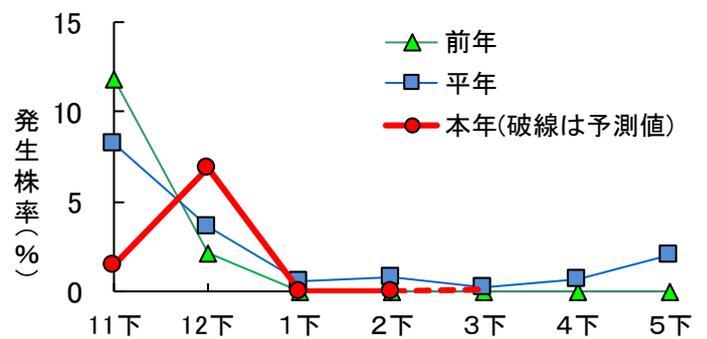


図1 コナジラミ類のキュウリでの発生推移

トマト

農技防調査：8 圃場、防除員調査 6 圃場
調査日： 2 月 20 日～23 日



定期調査圃場の様子

1. 葉かび病

1) 予報の内容
発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：8.6%（平年 1.9%、前年 5.6%）
平年比：多（+） 前年比：多（+）

(2) 3月の気象予報

気温がやや高く、降水量がやや多く、
多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生がみられる圃場では、発病部位の早期除去とともに系統（FRACコード）の異なる薬剤（防除のてびき P479-482 参照）を組み合わせる定期的な薬剤防除を実施する。

(2) 施設果菜類の特記事項を参照。

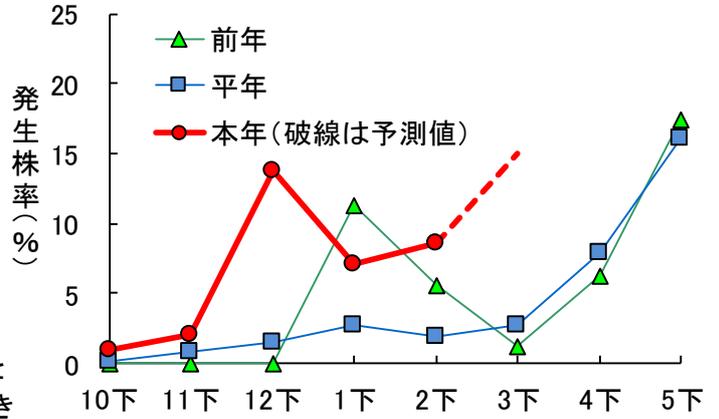


図1 葉かび病のトマトでの発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：1.8%（平年 6.0%、前年 2.5%）
平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温がやや高く、降水量がやや多く、
多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 発生がみられる圃場では、発病部位の早期除去とともに系統（FRACコード）の異なる薬剤（防除のてびき P479-482 参照）を組み合わせる薬剤防除を実施する。

(2) 施設果菜類の特記事項を参照。

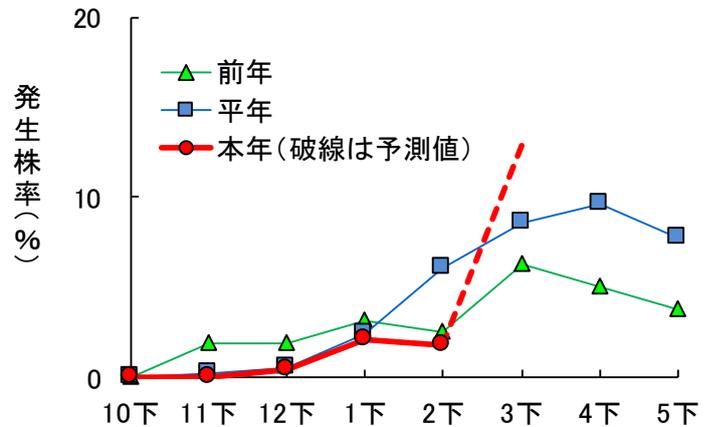


図1 灰色かび病のトマトでの発生推移

3. コナジラミ類

1) 予報の内容
発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率：1.1%（平年 1.9%、前年 1.9%）
平年比：並（±） 前年比：並（±）

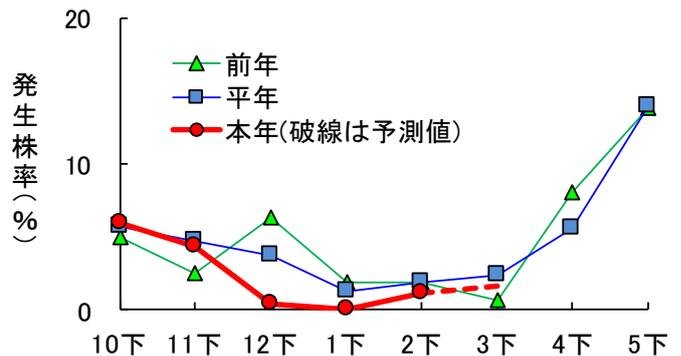


図1 コナジラミ類のトマトでの発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 特記事項を参照。

ナス（促成）

定期調査（7圃場）、防除員調査（6圃場）

調査日：2月20～21日



定期調査圃場の様子

1. すすかび病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 8.1%（平年 17.3%、前年 5.7%）

平年比：やや少（-～±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温がやや高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

- (2) 初発生を確認後、直ちにダコニール 1000（TPN水和剤）を散布し、約1週間後にベルコートフロアブル（イミノクタジナルベシル酸塩水和剤）を散布する。これを約1ヶ月間隔で実施することで本病の発生を低く抑える。散布の際は、これら剤の総使用回数に注意する。

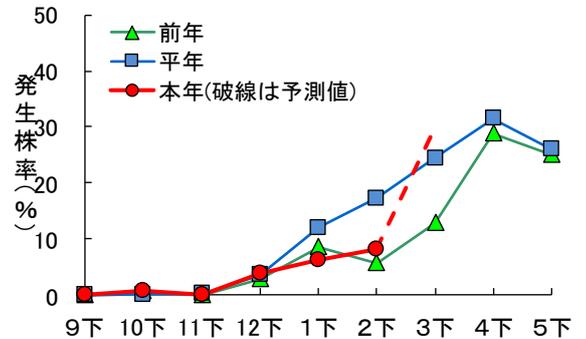


図1 ナスすすかび病の発生推移

2. 灰色かび病

1) 予報の内容

発生量：平年より多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 1.5%（平年 1.4%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：やや多（±～+）

(2) 3月の気象予報

気温がやや高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病部位は早めに除去し、曇雨天が続くと予想される場合は予防防除を実施する。

- (2) その他については施設果菜類の特記事項を参照。

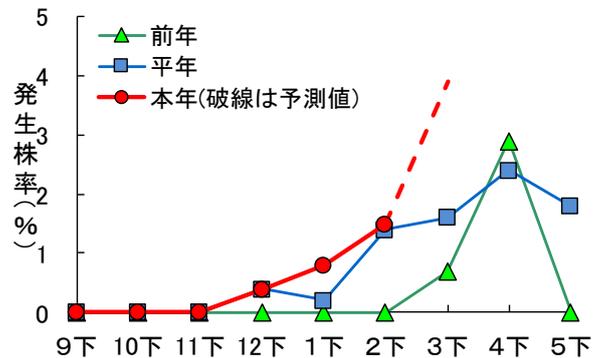


図1 ナス灰色かび病の発生推移

3. 菌核病

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率 0%（平年 0%、前年 0%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

気温がやや高く、降水量がやや多く、多発生の条件（+）

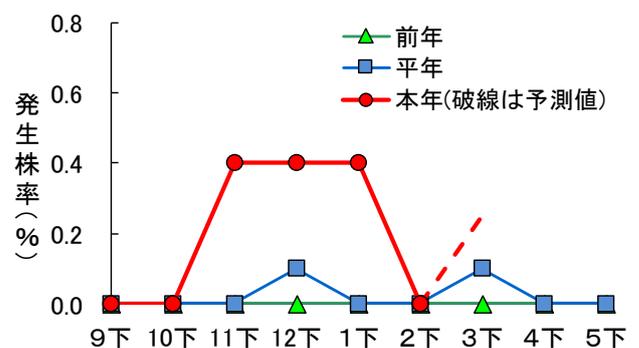


図1 ナス菌核病の発生推移

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 発病部位は早めに除去し、灰色かび病との同時防除を実施する。
- (2) その他については施設果菜類の特記事項を参照。

4. アザミウマ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

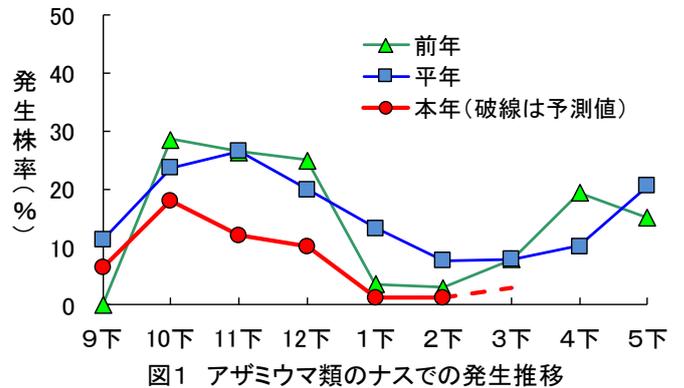
①定期調査（図1 参照）

発生株率 1.2%（平年 7.6%、前年 3.0%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



5. コナジラミ類

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや少ない（前年よりやや少ない）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

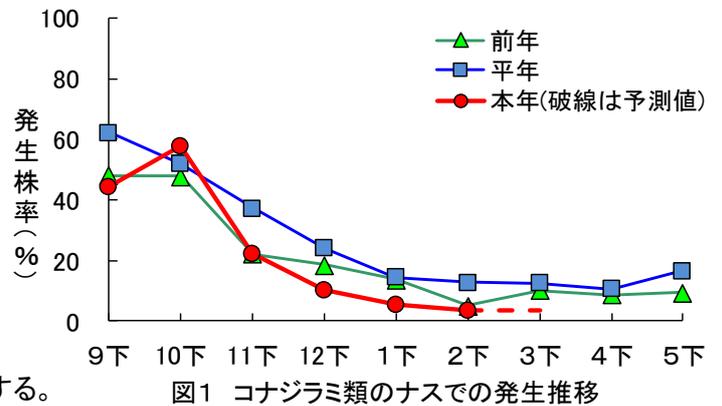
①定期調査（図1 参照）

発生株率 3.5%（平年 12.8%、前年 5.0%）

平年比：やや少（一～±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬液が十分かかるよう丁寧に散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。



カンキツ

定期調査：8圃場
調査日：2月20～22日



定期調査圃場の様子

1. かいよう病（本文掲載）

1) 予報の内容

発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1 参照）

発生葉率：0%（平年 0.1%、前年 0%）

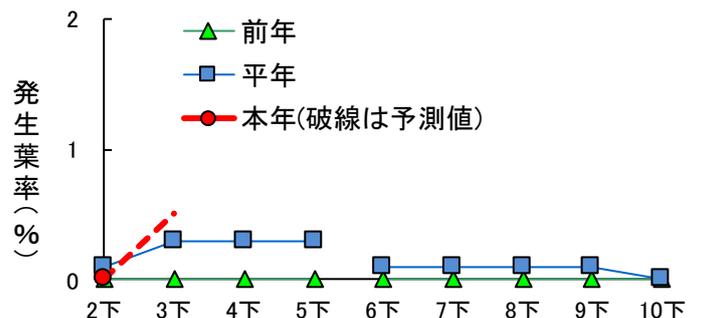
平年比：並（±） 前年比：並（±）

(2) 3月の気象予報

降水量がやや多く、やや多発生の条件（±～+）

3) 防除上注意すべき事項

(1) 特記事項を参照。



茶

定期調査：7圃場
調査日：2月21～22日



定期調査圃場の様子

1. カンザワハダニ

1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生葉率：0.9%（平年5.4%、前年0.1%）
平年比：並<±> 前年比：並<±>

(2) 3月の気象予報

気温がやや高いものの、降水量がやや多く並発生の条件<±>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) その他については、特記事項参照。

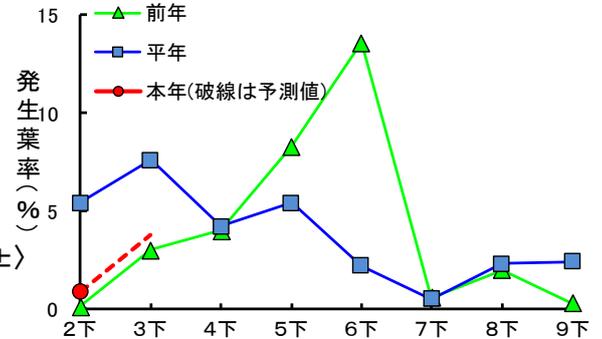


図1 カンザワハダニの茶での発生推

キク

定期調査（8圃場）
調査日：2月20～23日



定期調査圃場の様子

1. 白さび病

1) 予報の内容
発生量：平年よりやや多い（前年より多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率0%（平年3.4%、前年0%）
平年比：やや少<-~±> 前年比：並<±>

(2) 3月の気象予報

気温がやや高く、降水量がやや多く、多発生の条件<+>

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 施設内が多湿にならないように適宜換気を図る。
- (2) 薬剤は、葉裏や下位葉にも十分かかるように散布する。
- (3) その他については、特記事項を参照

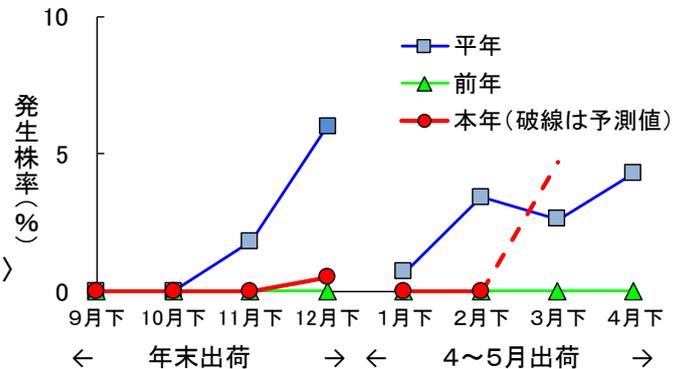


図1 キク白さび病の発生推移

2. アザミウマ類（クロゲハナアザミウマ、ミナミキイロアザミウマ、ミカンキイロアザミウマ）

1) 予報の内容
発生量：平年並（前年並）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

①定期調査（図1参照）

発生株率1.0%（平年1.1%、前年2.5%）
平年比：並<±> 前年比：少<->

3) 防除上注意すべき事項

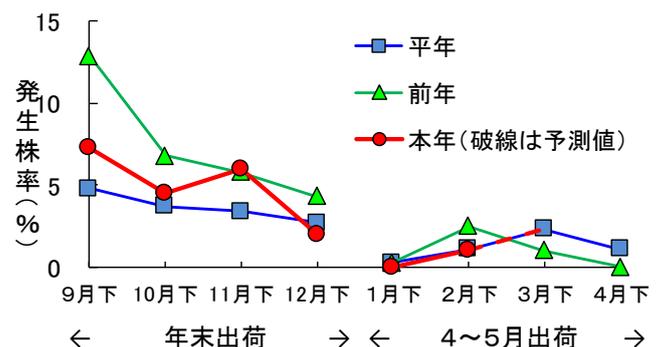


図1 アザミウマ類のキクでの発生推移

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない

3. ハダニ類

1) 予報の内容

発生量：平年並（前年よりやや多い）

2) 予報の根拠

(1) 発生の現況

① 定期調査

発生株率 0.3%（平年 0.7%、前年 0.3%）

平年比：並（±） 前年比：並（±）

3) 防除上注意すべき事項

- (1) 葉裏や下位葉にも薬剤が十分かかるよう散布する。
- (2) 薬剤感受性の低下を防ぐため、同一系統の薬剤を連用しない。

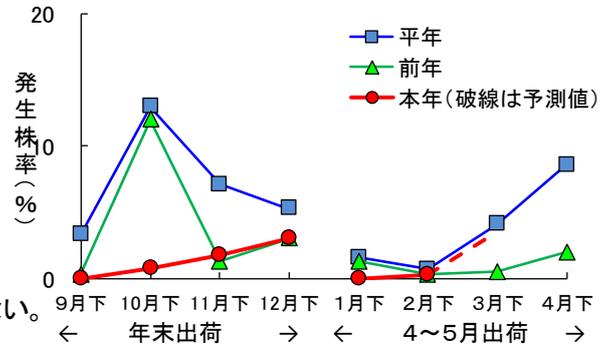


図1 ハダニ類のキクでの発生推移

連絡先：佐賀県農業技術防除センター 病害虫防除部
 〒840 - 2205 佐賀市川副町南里 1088
 TEL (0952) 45 - 8153 FAX (0952) 45 - 5085
 Mail nougyougi.jutsu@pref.saga.lg.jp